



新人作家賞 / 志賀理江子(しが・りえこ) = 名取市在住 =

1980(昭和55)年、愛知県生まれ。2004(平成16)年、英国ロンドンのチェルシー美術大学卒業。2005(同17)年、Mio写真奨励賞、2008(同20)年、写真集「Lily」(アートビートパブリッシャーズ)、「Canary」(赤々舎)で第33回木村伊兵衛写真賞、2009(同21)年、ICP国際写真センターインフィニティーアワード(新人賞)受賞。同年から宮城県名取市北釜にアトリエを構え、村の専属カメラマンとしてコミュニティーに溶け込むなか、その土地で培われてきた個々人のオーラルヒストリーに耳を傾け、その経験を取り入れた作品を村の人々と共同制作。



Lily 2005



Canary 2007



タイトル未定, 2010

特別作家賞 / 宇井真紀子(うい・まきこ) = 東京都在住 =

1960(昭和35)年、千葉県生まれ。'83(同58)年、武蔵野美術大学卒業。'85(同60)年、日本写真芸術専門学校卒業。写真家、樋口健二氏に師事。フリーランスで活動を始める。1992(平成4)年から20年に渡って北海道二風谷を子連れで繰り返し訪れ、アシリ・レラさん(日本名山道康子、アイヌ語で「新しい風」の意)を中心にアイヌ文化を守りながら共同生活を送る老若男女のファミリーを撮影。2001(同13)年、首都圏で生きる5千人近くのアイヌをとらえた写真集「アイヌときどき日本人」(社会評論者)出版。翌年同写真集で第7回週刊現代ドキュメント写真大賞、国内フォト・ルポ部門賞受賞。2010(同22)年、写真集「ASIR RERA: AINU SPIRITS」(新風舎)を出版、第4回さがみはら写真新人奨励賞受賞。2011(同23)年写真集「アイヌ、風の肖像」(新泉社)を出版、銀座ニコンサロンにて同個展開催。



*アイヌ語には、日本語にはない発音があります。ここではカタカナを借用して表していますが、「リムセ(rimse) = 踊り」「エムン(emus) = 剣」のように、子音の閉音節を小さな文字で表記しています。



北海道・二風谷(にぶたに)の集落の目の前を流れるシムムカ(沙流川(さるがわ)) 1993年



サバンベ(男性の儀式用のかぶりもの)をつけた少年 1998年



撃たれて放置されていた熊が運び込まれた。2010年 遠熊の魂を神の国へ送り返す儀式を執り行う

飛弾野数右衛門賞 / 南 良和(みなみ・よしかず) = 埼玉県秩父郡在住 =

1935(昭和10)年、埼玉県秩父生まれ。東京総合写真専門学校卒業。1967(同42)年、第4回太陽賞。翌年埼玉県文化奨励賞受賞。'78(同53)年、第28回日本写真協会年度賞、'94(平成6)年第13回土門拳賞、'96(同8)年、第21回伊奈信男賞受賞など受賞歴多数。生地である秩父を拠点に農家の嫁や農家の仕事といった農家の光陰に焦点をあてた作品で高く評価。虫おくり、甘酒こぼし、獅子舞、悪魔はらいなど、地方に残る独特の風習、祭り、四季折々の自然の様子、信仰の抛りどころなどをライフワーク。



家を忘れる嫁たち 1962年



21歳の嫁の手 1963年 嫁とは、家にとつてもっとも重宝な生きた道具。



デートに出かける娘 1968年

<敬称略、いずれも佐藤時啓氏講評から抜粋>